学校だより

翔　　空

№１４　平成２３年　９月　６日（火）
郡山市立喜久田中学校長　大堀　昌弘

「翔空（しょうくう）」の由来　〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚（ふうこうめいび）なこの学舎（まなびや）から、希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

◆　今回の駅伝大会に出場し、実際に走ったメンバーと補欠メンバーの両方を紹介します。本当にご苦労様でした。

〔男子チーム〕
１区：国分　裕史さん（２）
２区：添田　恵悟さん（３）
３区：野村　裕貴さん（３）
４区：斎藤　郁也さん（２）
５区：大橋　裕太さん（２）
６区：七海　晃平さん（２）
補欠：安藤　　巧さん（２）
　　桑原　凱斗さん（２）
　　佐久間耐綺さん（２）

〔女子チーム〕
１区：金田　紗季さん（３）
２区：大島　桃花さん（３）
３区：吉成　風華さん（２）
４区：遠藤　未来さん（２）
５区：青山　理乃さん（２）
補欠：星　絵莉奈さん（１）
　　大島　彩花さん（１）

【 英語のことわざ ④】

今回の諺は、勉強ばかりしている子への戒めの言葉です。たまには息抜きというものが必要ですね。

"All work and no play makes Jack a dull boy."

直　訳：仕事ばかりで遊びがないと、ジャック（日本で言う太郎、花子など）は愚か者になる。

意　訳：「よく学び　よく遊べ」

読み方：「オールワーク　アンド　ノー　プレー　メイクス　ジャック　ア　ダル　ボーイ」

何をやるにしても中庸というものが必要です。何かに偏りすぎてはいけないということでしょう。世の中って本当に難しいですね。

今の子供たちには忍耐力が...

昨日、郡山市の駅伝大会が秋空のもと開催されました。本校からも男女２チームが参加し、結果として、男子は２８チーム中２２位、（時間１時間６分１６秒）女子は２４位（５３分３８秒）と最後まで走り抜くことができました。一生懸命に走る生徒の姿はなにものにも代え難く素敵に見えました。走り抜いたことに大きな意義があり、生徒の頑張りに脱帽するばかりです。会場には、選手の保護者の方々やＰＴＡ会長の今泉さんも応援に駆けつけてくださりました。何よりも天候に恵まれたのが幸いでした。

教務の三瓶先生の話によれば、夏休み前に部員を募るところから大変な苦労があり、大会間近になっても チームがまとまらずまたまた苦労し、大会当日までハラハラドキドキの連続であったそうです。男女とも純粋に陸上専門ではない、言ってみれば「寄せ集めの走る集団」であったわけで、よく最後まで走り切ったという感じです。ちなみに、サッカー部も、現在は部員１２名ながら先週日曜日の大会で２勝し、勝ち進んでいるとのことです。どこの部も「忍耐力のなさ」や「部員不足」、そして「まとまりのなさ」などで悩んでいるそうです。

今、このような時だからこそ子供たちには「毎日の積み重ねの大切さ」というのを教えていきたいと考えております。日々の努力がいかに大切であるか、このことを話すのにいつも引き合いに出すのが「**勝利の陰に涙あり**」という言葉です。この言葉は、私がまだ若かりし頃、ある中学校で女子バレー部の監督をしていたときに、地区で有名な監督（この人が指導すれば、必ず地区大会優勝以上の成績をあげることができると言われていた）から座右の銘としていただいた言葉です。何も知らないところから始めたバレーの指導。その指導のノウハウをつかむためにいつも学校を訪ね歩き、試合をさせていただきました。そして、自分が取り入れたいと思った指導法を「盗んで」来ました。その中から自分の独自の指導法を編み出しました。優勝するためには、当然、日々の練習を積み重ねなければなりません。並大抵の努力では勝つことはできません。こういった陰の努力あってこそみんなで勝利の涙にひたれるのです。根性物がはやらなくなった今でも、この考えは十分に通用するものだと思います。今改めて、本校の生徒には「努力の大切さ」や「死にものぐるいでやることの大切さ」を伝えたいと考えています。

◆今回は、夏休みの間に喜久田小学校と上伊豆島小学校の両校に協力いただいて仕上がりました「通学路放射線マップ」を裏面につけましたのでご覧ください。以前ほどではないにしても未だ高い場所があるのが心配です。今後学校としての対応を検討して参ります。